



第22回 山口大学おもしろプロジェクト 1月



2017年度第二期募集による追加プロジェクトの紹介

6月に実施しました第二期募集により、新たに5つのプロジェクトが「第22回おもしろプロジェクト'17」に加わりました。5月に採択されたプロジェクトとあわせて計14プロジェクトが、これからの1年間活動することになります。おもプロを見かけたら、少し興味をもってのぞいてくだされば幸いです。

【light】絆

今回のこのプロジェクトの目的は3つである。1.食品廃棄率の減少、2.農家の生きがいの創出、3.農家と学生のつながりの創出をすること。そのために、普段農家で食べることが出来ず廃棄されている農作物を希望者の学生に対して提供し、農作物を受け取った学生から農家に対してお礼の手紙を書いてもらう。そこで農家と学生のつながりを紡ぎ、お年寄りには野菜を作るやりがいを得てもらい、学生には農業、農家の方に興味を持ってもらう。

【light】エン会プロジェクト

学生協働とは、学生目線で図書館利用を促進し改革する活動を行う団体であり、全国唯一の医学生による学生協働として全国学生協働シンポジウムにこれまで2度活動報告をする等、全国に向けて活動実績を発信し、注目を集めてきた。また、学内から地域へ飛び出し、地域の中高生との意見交換会、交流会、特に本に接する機会を増やす事を目的とした読書会を開催し、大成功を収めてきた。今回、新たに本のみならず、医学生目線のボランティア企画、音楽、映画、陶芸、園芸、料理など参加者各々が関心を持つ文化活動を紹介しあひ楽しむというエンターテインメントを持ち寄りシェアする会「エン会」の開催を立案した。この会では地域で活躍するプロをお呼びし、実演、講演していただく講演会も同時に行うことで持ち寄り文化活動がない人も気軽に参加できるものである。エン会プロジェクトとは、各々が興味、関心を持つ文化活動を紹介しあひ楽しむという「エンターテインメント～エン～」が主旨であるが、さらに人の縁（えん）、地方創生を発信する園（その・えん）、そしてそれらが集まり大きな輪になり作る円（えん）も目指している。

【light】カンボジアの子どもたちを支えよう！

山口大学が行っている国際交流イベントとして、「カンボジアで運動会を開催」というものがある。その交流活動の一環に、現地の子どもたちに文具などを寄付している。ただ、その文具を集めることが非常に困難であるとのことである。また、カンボジアという国に関して、日本の中高生はもちろん、山口大学生も詳しい現状を知らない。そこで、私たちは、ワークショップを行ったり寄付物募集のために中学校・高校を回ってカンボジアの紹介動画を流したりして、山口大学及び山口県の中高生にカンボジアという国を知ってもらい、山口県とカンボジアの橋渡しとしての役割を担いたいと考えている。

【テーマ】TRICK ART！

正門前の横断歩道での自転車の降車や駐輪場所などの規則が守れていない学生が多く見られます。そこで、私たちは、これらの自転車問題を、トリックアートをを用いることで解決したいと考えています。視察や試作を経てトリックアートを完成させ、実際にトリックアートがどれだけの効果を与えられるのかを検証します。また、学内の行事である「てくてくツアー」や「サイエンスワールド」と連携して、私たちの取り組みを紹介して、地域にも広報を努めていきたいと考えています。実際に検証する際には、リスクマネジメントに十分注意して取り組んでいきたいです。

【テーマ】Let's connect with Japan！！

平成27年度の国際総合科学部の新設に伴い急激に留学生が増加していることを踏まえて、多くの留学生がより満足した生活を送れるように特に課外活動の面での充実をはかる。活動計画として留学生、山大生および地域住民を交えた日本の文化体験を考えている。留学生に対するヒアリング調査を行った後、彼らの希望を参考に活動案を作る。例えば日本食、武道、芸術を体験するワークショップを開催する。また1年を通して継続的にやりたいので日本の四季にそった文化活動を提供する。

スペ研

7月9日に部室であるプレハブ小屋にて常盤工業会の助成金の予算案についてのミーティングを行いました。ここではモデルロケットや缶サットの部品の価格を調べ、計上し、それについての説明を考えました。7月14日には常盤工業会で助成金についての面接を行いました。助成金は予算通りいただくことができました。しかし面接での予算案の確認が不十分だった点や受け答えに道理が通ってなかったりと不備が目立ったので面接の準備をより丁寧に行わなければならないと反省しました。7月13日には地方テレビの「ちくまや家族」の取材を受けました。モデルロケットを実際に発射し、活動の説明をしました。テレビ局の出演で我々スペ研の活動を山口に発信することができたと考えます。7月28日にはオープンキャンパスでのおもしろプロジェクトの紹介のためのモデルロケット打ち上げに使うロケットを製作しました。ロケットは設計図を作成し、部員で役割分担をしながらロケットを完成させました。



TV取材を受ける

まきちゃんと竹であそぼう



サマープログラムにて竹箸作り

今月は竹を切り、サマープログラムを二回実施と、怒濤の一月でした。まず、竹を切っているときに一番感動したのは、竹用鋸の切れ味です。普通の鋸とは雲泥の差で、道具の大事さを痛感しました。次に、サマープログラムの一回目では、10人の参加者がありました。実際やってみて、留学生には私が説明したこと半分も理解できていないことに気がきました。竹を箸の長さで切って、先をカッターで削ったこと、着色での効果的な色の順番、水の分量については、日本語の難しさと説明における配慮（現物を見せながらの説明、ゆっくりと簡単な言葉で、など）が不十分で、理解しにくかったようです。二回目は、説明の分量を減らしました。というのも、一回目では説明した方法はできていないものの、自分たちなりに工夫してうまくやりぬけていました。だから、説明を「ザラザラ」を「ツルツル」に、と、箸の半分から上だけ色塗り、の二点に絞りました。理解できない説明を受ける不安を取り除くことができ、結果的にしっかりと作業に集中できているようでした。

これらのプロジェクトに関するお問い合わせは
自主活動ルームにて受け付けています